

2017年1月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 1月の景気判断は、「一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している」としました。前回12月の判断と変更はありません。
- 個人消費は、大型店の売上動向には大きな変化はない一方、自動車の売行きは引続き回復傾向にあるとみています。観光は、頭打ち感が続いています。この間、公共投資は緩やかに増加しており、住宅投資は引続き緩やかに持ち直しているとみています。雇用は改善傾向が続いています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、12月は前年比▲0.9%と前年実績を下回りました。クリスマスを含む3連休に降雪があったため、客足が鈍ったとの指摘もあります。実勢は若干弱含みの横ばいとみています。
- 12月の新車登録台数は、前年比+2.2%でした。これで5か月連続の増加です。伸びを牽引しているのは、「軽自動車を除く車種」で前年比+6.0%でした。「軽自動車」は引続き持ち直し傾向にあるとみてはいますが、12月は前年比▲6.0%と2か月続けてマイナスでした。自動車販売は、軽自動車以外の乗用車の新型車を中心に、比較的しっかりした動きになっているとみています。
- 以上からみて、個人消費は、全体としてほぼ横ばい圏内の動きと考えています。

■観光の動向

- 観光は、引続き弱めのデータが目立ちました。
- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、11月は前年比

▲7.0%、12月は同▲5.4%といずれも前年を下回りました。これで4か月連続で前年割れです。特に、旭川空港の国際線は、上海便、北京便、台湾便で減便が相次いでいることから、11月が前年比▲60.0%、12月が同▲73.4%と大幅に減少しました。なお、空港別にみると、旭川空港は11月は国内・国際線とも前年割れで、全体では前年比▲10.9%でした。12月も全体では同▲8.0%と前年を下回りましたが、国内線は前年を上回りました（同+11.6%）。また、稚内空港（11月前年比▲13.5%、12月同▲12.6%）、紋別空港（11月同▲16.3%、12月同▲12.5%）と2か月とも前年を下回りましたが、女満別空港は（11月同+0.8%、12月同+1.0%）と前年を上回りました。

- 12月のホテル・旅館宿泊者数は、前年比▲7.6%と7か月連続で前年を下回りました。前述の旭川空港国際便の減便の影響のほか、悪天候によるキャンセルも多かったようです（特に新千歳便欠航の影響）。一方、市内ホテルの稼働率は、65.0%と前年水準を若干上回りました。逆風の中で比較的健闘したのではないかと思います。
- 各地観光は、旭山動物園が前年比+4.0%と11か月振りに前年を上回りましたが、それ以外は軒並み前年割れの実績となりました。

■公共投資の動向

- 上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負額は、11月は前年比+14.0%、12月は同+50.2%と2か月続けて前年を上回りました。この結果、4~12月累計は、前年比+2.4%と前年実績を上回っています。建設業界では、今年度予算の前倒し執行や農業土木を中心とする前年度補正予算分の執行に加え、災害復旧のための工事もあり、人手不足と相まって、各社とも繁忙となっているようです。

■住宅着工

- 11月の新設住宅着工戸数は、前年比+46.5%と大幅に増加しました。持家（前年比+20.5%）、貸家（同+66.1%）とも大幅に伸びています。住宅

着工の統計は振れが大きいので、読み方が難しいのですが、引続き持ち直し基調にあるとみています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。11月の有効求人倍率は、旭川が1.00倍、稚内が1.30倍、北見が1.29倍、網走が1.32倍でした。新規求人数は、10月に減少した旭川を含め各地域とも前年を上回り、全体で前年比+13.0%となりました。

■今後のポイント

- 12月14日に公表した短観では、道北地域の企業の業況判断DIは+14でした。3か月前に比べると若干低下していますが、引続き良好な状況にあると思います。収益見通しも比較的しっかりしたものとなっていました。こうした調査結果を踏まえても、現在の道北地域の景気は決して悪くはなく、そこそこ良い状態にあるとみています。
- 今後に関しては、次の5点に着目していきたいと考えています。

① 観光の動向

インバウンドの減少を主因に頭打ちの状況となっておりますが、一部にマレーシアやインドネシアからの観光客が増えているとの声も聞かれました。為替円安により外国人観光客が持ち直すのではないかとの期待もあるようです。今後の動向に注目したいと思います。

② 個人消費の動向

西武旭川店閉店後の個人消費の実勢を引続き見極めていきたいと思えます。また、足許堅調に推移している自動車販売も息の長いものになるか否か、注目しています。

③ 設備投資

12月短観の調査結果では、企業の収益は良好であるにもかかわらず、設備投資計画は低調でした（2016年度計画：前年比▲17.3%）。設備

投資が出てくるかが、今後道北の景気回復が息の長いものになるためのキーファクターになると思います。

④ 住宅投資、民間建築

新設住宅着工戸数や建築物着工床面積（非居住用）については、持ち直し基調にあるとみていますが、これが投資意欲の増加を反映したものなのか、単なる一時的な振れによるものなのか、引続き見極める必要があると思います。

⑤ 賃金の上昇

企業業績が比較的良好である中で、賃金を上げる会社もみられています。これが目に見えて広範化しているというようにはまだ感じられません。道北地域の景気がしっかり回復していくためには、消費が活発になる必要があります。そのためには所得が着実に増える必要があります。その意味で、地元企業の賃上げの動きも、今後の大きなポイントになると思います。

以 上

景気判断の推移

公表月	日本銀行旭川事務所		日本銀行札幌支店		(参考)北海道財務局旭川財務事務所	(参考)北海道財務局北見出張所
	前回比	道北(上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内)	前回比	全道	道北(上川・留萌・宗谷総合振興局管内)	オホーツク総合振興局管内
2014年9月	→	天候要因等による振れを伴いつつ、基調的には着実に持ち直している	→	緩やかに回復している	持ち直している	消費税率引上げに伴う、駆け込み需要の反動が弱まってきており、緩やかに持ち直している
10月	→	一部に緩慢さを残しつつも、基調的には着実に持ち直している	→	↓		
11月	↓	個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している	→		一部に弱さがみられるものの、持ち直している	一部に弱さがみられるものの、持ち直している
12月	→	↓	↓	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している		
2015年1月	→		→	→	↓	
2月	→	→	→			
3月	→	→	→	↓		一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる
4月	→	→	→			
5月	→	→	→	↑		
6月	→	→	↑			
7月	→	→	→	↓		
8月	公表なし					
9月	→	→	→	↓		
10月	→	→	→			
11月	→	→	→	↓		
12月	→	→	→			
2016年1月	→	→	→	↓		一部に弱さが残るものの、緩やかに持ち直している
2月	→	→	→			
3月	→	→	→	↓		
4月	→	→	→			
5月	→	→	→	↓		
6月	→	→	→			
7月	→	→	→	↓		
8月	公表なし					
9月	→	→	→	↓		
10月	→	→	→			
11月	→	→	→	↓		
12月	→	一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している	→			
2017年1月	→	→	→	↓	↓	↓





